

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6 年 4 月 1 日

事業所名 進学&就職支援 あなたが宝モノ 泉南兎田教室



事業所による自己評価の令和5年度の結果を公表します。
自己評価表結果や保護者等アンケート結果をもとに支援の資質向上に努めていきます。
これからも進学と就職支援あなたが宝モノ 泉南兎田教室をどうぞよろしく願いいたします。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	法令を遵守しています。お子様の成長やプログラムの変化に合わせて、パーティションを用いて指導訓練室のスペースを変化させています。	
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	法令を遵守しています。また、法令の配置数に加えて、常勤換算で機能訓練担当職員を配置し、より行き届いた対応をすることを心がけています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	教室の玄関前に3段の階段、教室内にも段差があります。車いすの方のためなど必要に応じて置き型スロープを設置するなど、教室内外にて補助が必要な場合は、スタッフが対応いたします。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	主に、個別支援計画の作成にあたり、PDCAサイクルにのっとり、スタッフが参画しております。また支援計画を更新した際は、スタッフ全員に計画の共有をしています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	今後も定期的にアンケート調査を実施し、よりよい評価を頂けるよう、業務改善につなげていくよう努めます。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	事業所向け並びに保護者様向け評価を実施し、結果による支援の質の評価及び改善の内容をHP、ブログ、SNS等で公開します。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	コンサルティング会社と提携し、常にご利用者様にとって何が最善の療育となるかを考え業務内容の評価と改善策の提案を受けています。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	新人研修はおよそ一か月の座学と実地訓練を含めた研修を行っています。また、その後も定期的に研修、模擬授業等を行い、資質向上に努めています。今後は教室の特色に合った研修の機会を確保し、より向上できることを目指します。	

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	必要に応じてモニタリングを行い、支援計画の更新前にはアセスメントを行うことで、お子様と保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、サービス計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	事業所でのルールやシステム化されたプログラムの中で、現状把握に努めています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	ご利用者様の支援計画に基づき、全スタッフでプログラム作成会議や模擬を行い、療育内容を共有した上で、日々の活動プログラムを立案しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	月ごとに設定したスケジュールに沿って、プログラムを実施しています。また、スタッフ間での情報共有をしながら、療育内容に細やかな変化を加えています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	土曜日や祝日、長期休暇では、午前と午後に分ける時間割設定を行い、長時間の三密を避けられるようにします。また、平日を含めてメインプログラムとサブプログラムの時間を取ることで、課題に向き合えるように工夫をしています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	聞き取った個々の状況・課題に合わせて、検討を行い、集団活動の中で、適切な療育が行えるよう放課後等デイサービス計画を作成しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日の進行表を元に、プログラムの内容、それぞれの役割、来所する子ども達を確認し合っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	イレギュラー対応が無い限り、毎日その日のうちに振り返りを行うことで療育内容や支援方法に関する気づきを共有し、次の支援に引き継いでいます。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	その日の療育内容や気付き、次回への引継ぎなどを日報に記録することを徹底し、より良い療育の提供に繋げています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	個別支援計画に基づき、定期的にモニタリングを実施し、ニーズ・課題の見直しの必要性を日々の日報を通して判断しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	ガイドラインの総則の基本活動を複数、柔軟に組み合わせた支援を行っています。	
	関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者または公認心理師が参画しています。
		21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	主には、保護者様を通じての連絡調整となりますが、学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、お子様の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)をご協力頂き、適切に行っております。
		22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	医療的ケアが必要なお子様のご利用に備えて医療機関と連絡体制を整えています。
		23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	必要に応じて、出来る限り、就学前に利用されていた施設へ情報共有・相互理解できるよう働きかけていきます。
		24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	できる限り担当者会議を行い就労支援事業所など各関係機関との連携をとれるようにしています。また、卒業された方が進まれた進路先を訪問し、情報共有を行っております。
		25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関が企画・開催している研修に積極的に参加し、また訪問することで連携をとっていきます。
		26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	事業所内での療育の質を高めることを重点的に取り組んできたため、なかなか交流ができておりませんが、今後、障害のないお子様との交流の機会を作っていきます。また別に障がい福祉施設を見学するプログラムを行い、障がいをお持ちの方との交流は行っております。
		27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	(地域自立支援)協議会等の会議やイベントに参加できる機会があれば、積極的に参加していきます。
28		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎の際や電話、連絡帳、メール、LINEなどで日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持つよう努めています。	
29		保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	相談のあった保護者には積極的に行っています。また外部講師を招いたセミナーを年1回ほど企画し保護者の方にご参加いただきご家庭での支援に役立ててもらっています。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	療育説明会での支援内容のご説明と同時に、ご契約前には運営規定並びに利用者負担について丁寧に説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	アセスメントの時には必要に応じて心理検査を行い、保護者様の悩みが解決するように送迎の際や電話、連絡帳、メール、LINEなど様々なツールを用いて日頃からお子様の状況を保護者と伝え合い、お子様の発達の状況や課題について共通理解を持つよう努めています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	今年度はカフェイベントを当事業所で開催し、保護者様同士の交流をもつ機会を提供できました。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	随時、電話・連絡帳・メール・LINE等で相談や申し入れについて対応の体制を整備しております。また、相談窓口を設けており、そのことは周知しています。相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月活動内容を載せた宝モノ通信を保護者向けに発行しています。その他にLINE、HP、ブログ、Facebook等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をお子様や保護者に対して発信しています。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報はずべてスタッフルームに保管し、不要な個人情報の書類はすぐにシュレッダーで破棄するようにして、個人情報の取り扱いに細心の注意を払っております。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	お子様には視覚情報を多用して意思疎通できるように配慮しています。保護者様との意思疎通ツールとしてLINE公式アカウント、HUGシステムなどできるだけ視覚的に記憶・記録に残るツールの使用を心がけています。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	今年度は、カフェイベントを当事業所で開催をし、多数の保護者様を招くことが出来ました。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、スタッフに周知しています。新型コロナ感染に伴い保護者様にもご理解とご協力をいただきました。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	地震・火災に備え療育時間中に避難訓練を可能な限り行ってまいります。避難訓練の出来ない月にはスタッフでの避難訓練に関するミーティングを開くようにしております。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止マニュアルを基に、社内で虐待防止委員会を設立し、教室長が虐待防止委員として参加をしております。また社内での研修を開くことや、虐待セミナーに参加したスタッフを通して報告書を用いて内容が広く共有出来るように取り組んでおります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、お子様や保護者様に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載する仕組みを構築しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	入会時に事前調査票に記入していただいた情報と面談を元に食物アレルギーの有無を把握し、主治医の指示書がある場合はそれに基づいた対応をしています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハット事例集を作成して共有し、事故防止に努めています。